

各派 代表質問

2月22日～24日の本会議において、平成24年度予算議案に対する各派代表質問が行われました。各会派の質問者は左記のとおりです。

- 鎌倉みらい (前川綾子議員)
- 鎌倉無所属の会 (長嶋竜弘議員)
- 民主党 鎌倉市議会議員団 (飯野眞毅議員)
- 神奈川県ネットワーク (三宅真里議員)

- 日本共産党 鎌倉市議会議員団 (赤松正博議員)
- 公明党 鎌倉市議会議員団 (西岡幸子議員)
- かがやく 鎌倉を創る会 (山田直人議員)

(代表質問順)

新年度予算に対する各会派の評価と見解

熟議を重ねて決定できる市政運営を

地震、津波などへの防災対策、あるいは教育・福祉の充実や行財政改革など、鎌倉市には喫緊の課題が山積みです。厳しい財源下、ほとんどの事業に5%の削減が求められ歳出を抑制しています。その中で政策の優先度を見極めスピーディーな施策、予算、決定が求められています。

●少子高齢対策の推進を

ティアラかまぐららの二床増床や妊産婦健診支援の継続は、鎌倉市独自の政策として評価できます。さらに鎌倉地域、玉縄地域の待機児童対策に伴う保育園等の整備についての早期推進を強く求めます。

●障害者の就労支援を

障害のある方の働き場所は企業に限りません。雇用奨励金の活用の範囲を広げ、またジョブサポーターの派遣などの支援をし、商店や農・水産業などの受け入れ先を積極的に拡大すべきです。

●教育環境整備の充実を

大船中学校の改築については地震に対する不安が高まっている中、計画に沿った確実な推進を要望します。また放課後子ども教室の実施拡大、児童・生徒用机・椅子の更新、小中一貫教育の推進など、子どもたちの教育環境の充実のため着実な推進を求めます。

●鎌倉漁港建設の促進を

腰越漁港の改修整備は事業が継続しています。一方、鎌倉地域の漁港建設については、基本構想策定に向けての取り組みが引き続き進められていることを確認致しました。着実に推進されることを改めて要望します。

●防災対策にさらなる充実を

数々の防災対策に費用が計上されたことは評価しますが、長期にわたる避難所生活が強いられる場合もあり、女性、幼児、高齢者や障害者、

鎌倉みらい



鎌無会



民主党



大きな社会目指して！

●ビッグソサエティー！

大きな行政で、福祉のばらまき等を行い借金を雪だるま式に増やすことをせず、かと言って行革一辺倒の小さな行政のみを目指すのではない、市民一人一人が主権者である自覚を持ち、担い手の一人として積極的に市政に参加しながら、財政出動を抑えつつ、歳入のバランスにも配慮して行政運営を行っていく、これを「ビッグソサエティー(大きな社会)」と定義し、この理想の社会構築に向けて進むことこそ、市民の幸福や満足度を満たせる唯一の手段と考え、この事を念頭に平成24年度の評価を行いました。

●官民格差の是正を求める！

総務省が発表した平成21年度月額給与において、鎌倉市は日本一という不名誉な事態になりました。市民の信頼を回復するためには、まず、この汚名を一刻も早く返上することが、急務であります。しかし、この点への取り組みは、不十分極まりなく、職員給与や手当の見直しは速やかに着手するべきであります。

●ガンディー魂の言葉を胸に！

ラーニングオーガニゼーションの考え方を取り入れ、自己改革する強い行政組織をつくるためにインド独立の父マハトマ・ガンディーの言葉を贈ります。「理想に近づこうと努力すればするほど、理想は遠ざかっていくものだ。しかし、理想の実現よりも、はるかに価値あることは、熱い思いをもって前に進み続けることである。痛々しい前進であっても、この痛みは前向きな喜びだ。なぜなら、一歩前に踏み出したに、わたしたちは少しずつ強くなり、次に進んでいける。確信できるのだから。過去はわたしたちのものだが、わたしたちは過去のものではない。わたしたちは現在を生き、未来をつくる。たとえその未来にわたしたちがいなくても、そこには子どもたちがいるから。」

行財政改革を断行し、財源を確保すべき！

民主党鎌倉市議会議員団は、平成24年度一般会計予算原案賛成、修正案反対、他の諸議案を賛成いたしました。前年度と比較すると平成24年度一般会計予算額は2.1%減、市税収入は1.6%減であり厳しい財政状況が続いています。

●補助金のあり方

市は平成23年度に「鎌倉市補助金交付の見直しに関するガイドライン」を作成し事業費補助の移行を原則とする旨を規定しましたが、その徹底が必要と考えます。

●土地開発公社

10年以上保有する土地で市が買い戻す際に補助金が交付されないものは徐々に市が買い戻し、行政目的が達成される見込みがない土地は方向性を変更して買替えを行い公社の縮小整理が必要と考えます。

●修正案について

焼却施設整備検討委託料は、鎌倉市にとってごみ問題は喫緊の課題であり迅速に取り組みべき課題であるため、基本構想、基本計画を一体で進めるべきであり、また防災用間仕切りは、優先順位としては飲食料、光源、熱源を優先すべきであるため修正案は反対いたしました。

●市職員の人員費について

官民格差是正、「わたり」などの給料表の適正化、退職金の是正などが必要と考えます。

●玉縄・鎌倉地域の待機児童対策

玉縄地域ではフラワーセンター1苗ほ跡地の保育園を含めた子ども関連施設は当該土地7千㎡のうち、土壌汚染がないとされている2千㎡について、瑕疵担保条項を設けた上で補正予算で対応することは理事者質疑で確認しましたが、早急な対応が必要であり、鎌倉地域では鈴木邸今井邸跡地を活用した保育園を含めた子ども関連施設の整備を津波対策も併せた上で早急に取り組みが必要と考えます。

